

県民の友

発行/和歌山県 知事公室 広報企画課 〒640 和歌山市小松原通1の1 ☎0734(32)4111 №578

昭和61年
10月号



伝統の技を 次代へ

先人より伝承されてきた、美しく麗しい漆器の技法がこうして、確実に後継者に伝えられています。

漆器

英語ではジャパンと呼ばれる

青貝細工の漆盆に金粉を
蒔いていく流麗な手つき。
食い入るように見つめる
熱いまなざし。

オープン

伝統産業会館 紀州漆器



紀州漆器の起源

四百年以上前の室町時代、海南市の黒江地区で近江系の木地師の集団が木挽の製造を始め、やがて渋下地の椀を作る村ができたといわれています。

また、秀吉に攻められた根来寺の僧徒のなかで漆の技術を持つ者がこの地に逃れ、その技術を伝えたという説もあります。

黒江塗りなどと呼ばれてきた紀州漆器は吉野熊野の豊富な原木、温暖な気候と適度な湿度に恵まれ、江戸時代の初めには全国に知られるようになっていました。その後、生産量も増え、流通機構の整備とともに大きく発展してきました。

従来の木製漆器に加え、戦後はプラスチックの素材が普及、現在では製品の九〇パーセントを占めています。

昭和四十五年には海南市の岡田地区に漆器団地工場が完成、漆器生産の中心になりました。

九月十三日、海南市船尾に紀州漆器伝産業会館がオープンしました。

海南市は古来、日本有数の漆器の産地として知られ、石川県、福井県、福島県などの産地とともに全国で大きなシェアを占めています。

昭和五十三年、百年以上の歴史がある工芸品を対象とする「伝統的工芸品」に指定された紀州漆器によって、そのすぐれた技法は衰退する恐れがあります。

そこで、紀州漆器の振興を図るため、伝統技術の伝承による後継者育成の場、紀州漆器のよさを見直してもらうためのPRの場として、この会館が造られたのです。

会館の二、あんない

紀州漆器伝産業会館は海南市

並みにマッチするようデザインされています。

紀伊風土記の丘

和歌山市の東部に、岩橋千塚古墳群とよばれる全国でも最大規模の古墳群があることは皆さんもよくご存じのことでしょう。現在約650基の古墳があるといわれています。この古墳群の保存と活用のために史跡公園紀伊風土記の丘が開園したのは、昭和46年8月2日。今年、15周年を迎えます。そこでこれを記念し、今年の夏から秋にかけ、さまざまな催しが行われています。

紀の万葉講座
紀伊風土記の丘の入口をはいると、まず目にはいるのが松下記念資料館。そこよりも少し奥に万葉植物園があります。万葉集四千五百十六首のうち、紀の国の地名が詠まれているもの、または関係



万葉植物園で歌の朗詠

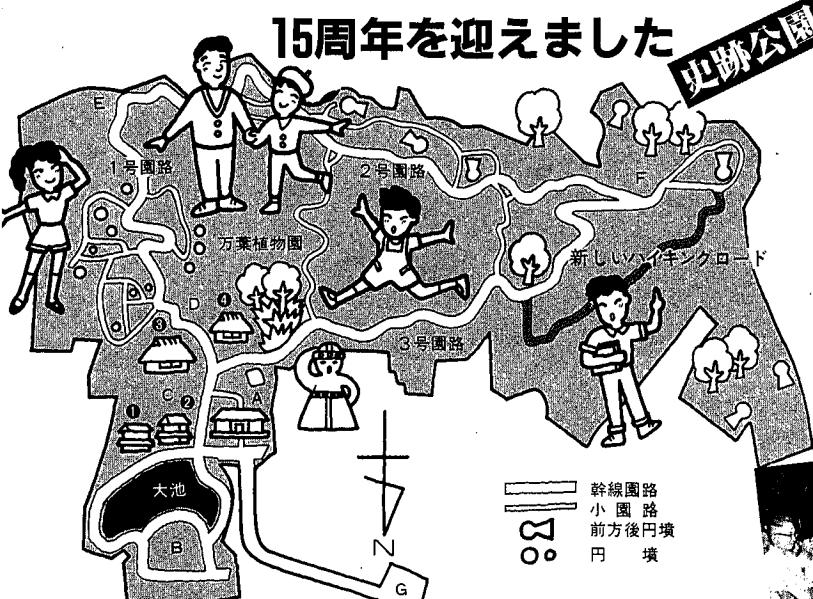
があると思われるものは百三十首。これら紀の万葉に登場する植物を自然の姿で観賞できるようにならされたのが、万葉植物園です。八月から九月にかけ、この万葉植物園で万葉の植物に触ながら歌を朗詠し、万葉人の心に近づこうという紀の万葉講座が開かれました。

九月十日、一般コース第一回目は、歌を味わうのにふさわしい小雨模様の日。午後一時、まず教室で講師の中村正寿氏の講義が始まりました。参加者は四十人余り。教室いっぱいに真剣な顔が並びます。万葉集が好きなおばさんによると、大学生も。講義はスライドを使い、いくつかの歌がそれに関係する植物とともに紹介されました。その後、万葉植物園で歌の朗詠が行われました。

磯かげの見ゆる池水照るまでに咲けるあしひの散らまく惜しも園内には五基の歌碑をはじめ四十二の歌詞板が立てられています。繰り返し朗詠しているうちに、教室の講義で聞いた「歌はリズムで味わう」という意味がわかるような気がしてくるから不思議です。朗詠が終わつた後も、皆さん思いに園内を散策し、万葉の雰囲気に浸っていました。

オリエンテーリング大会

紀伊風土記の丘は、学術的にも重要ですが、豊かな自然の残る潤いの場でもあります。八月十日に



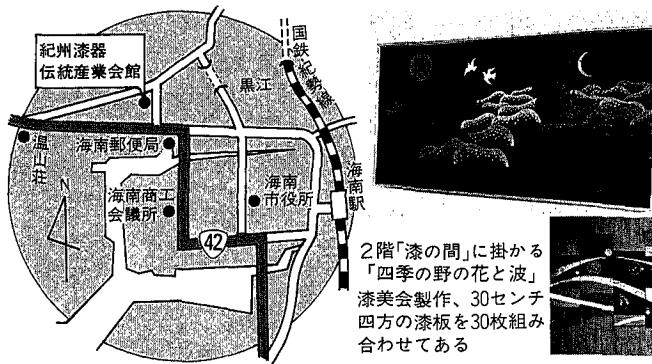
諸施設

- A 資料館
- B 展望園地
- C 休憩所・便所
- D 便所
- E 休憩所・便所
- F 休憩所・便所
- G 記念碑・駐車場・便所

移築民家

- ① 重要文化財旧谷山家住宅(漁家)
- ② 重要文化財旧柳川家住宅(商家)
- ③ 県指定文化財旧谷村家住宅(農家)
- ④ 県指定文化財旧小早川家住宅(農家)

県民の友



1階正面にある漆芸パネル「讃歌四季」グループ
360センチ×180センチ
2階「漆の間」に掛かる
「四季の野の花と波」
漆美会製作、30センチ四方の漆板を30枚組み
合わせてある

陳列されています。中には下津町の長保寺や海南市の淨國寺の膳といった貴重な品もあります。このほか実演コーナー、即売コーナーもあり、連日にぎわいを見せています。

会が開かれています。

1階は研修室、史料室など。
3階は研修室と絵画実習室など。
絵画実習室では漆器商工業組合主催で後継者育成事業としての講習会が開かれています。



同和連載

やさしさ、勇気

貴志川町丸橋小学校六年 山 下 清 美

困ったいぶ前のことですが、私が金沢のおばさんと和歌山市まで買い物に行った時のことです。

歩いていくと、大きな交差点がありました。そこへ、手と目が不自由な女人が渡ろうとしていました。

私は、「危ないな」と思いながら反対の方向に歩いて行きました。でも、やっぱり気になって振り向くと、その女の人があの道の真ん中でたおれていきました。なのにみんな車の中で「ブ

ーー」とクラクションをならしているだけで誰も車から降りて助けようとする人がいないのです。私は、うとすると人には、「氣をつける」と大声で言いました。私は腹が立って、言い返そうと思いましたが、相手が高校生ぐらいの男の人なので、「すみません」とあやまってその場

をあわてて立ちさりました。

女の人は、けがはないらしく、自分で起き上がろうとしていましたがつえもないし、片手が不自由なためなかなかできません。それでも、クラクションは「ビービー」「ブーブー」鳴り続けていました。私は、助けようとしていましたが、なかなか起こせなくてこまつていて、あわてて走り寄つてくるおばさんが見えました。そのおばさんは、すぐ寄つてきて、女人を起こしながら「目をはなして悪かったね」と何度も言ひながら、服のよごれをはたいていました。私がその人のつえをさがしてさし出すと女人は、にっこり笑つて、「ありがとうございます」と涙声で言つてくれました。その時私は、「ありがとうございました」という言葉はこんなに重く、またあたたかい言葉だったのかと、

そこへ、金沢のおばさんが、走つ

は植物の名前を答えるながらハイキングするアミリー史跡公園植物園が開設されました。また、九月二十三日には、今まで利用してきた主要園路に加え、約一・五キロのハイキング・ロードがオープン(図)。園路と合わせて約四キロのハイキングコースとなりました。新しく完成したコースは、渓谷を通る起伏に富むコースで、クリの木や山菜が多くみられます。要所に道標やベンチも整備され、家族

連れの気軽なハイキングに最適です。この新しいハイキング・ロードと従来の園路を利用して、十一月十六日、史跡めぐりオリエンテーリング大会が開催されます。資料館前を出発し、地図とコンパスでポイントを探しながらゴールする本格的オリエンテーリングです。午前九時からで雨天決行。参加料は五百円です。希望の方は十月三十日までに電話かハガキで住所、氏名、年齢、性別、職業、個人かグループの別(グ

ループの場合)を次のところにお知らせください。

〒640和歌山市岩橋一四一一番地
紀伊風土記の丘管理事務所「史跡めぐりオリエンテーリング係」
☎(0734)71-6123

参加料は二百円です。

特別展「紀北の遺跡」展
10月5日～11月24日

紀伊風土記の丘松下記念資料館
入場料 一般五百円、高大生二百円、小中生一百円

せん。大人たちは、見て見ぬふりをして、自分には関係ない、というような顔をして通りすぎていくのです。私たちのお手本になるはずの人たち。なのにこんなふうな態度では子供たちに、「差別をしてはいけない」と言う資格があるのでしょうか。だから、この時代にあってはならない差別、そしていじめが子どもたちのあいだにまであるのだと思つてしまひます。

もちろん世の中はこんな人たちばかりではないはずです。やさしさ、思いやりのある人もたくさんいるはずです。

私は、大人になつても今の気持ちを失わずに生きていきたいと思うし、もしまだ同じような場面に出会つたら、その時もためらわずに手をさしのべてあげようと心から思つています。

私の話は、ほんの数分の出来事でしたら、今でもよく覚えていています。車に乗つていた人、通つていた人、周りにたくさん人がいたのに、誰一人、誰一人としてその女人を助けようとしてやろう、起こしてやろうとする人がいなかつたということを、今になつて思い出しても、すごく悲しい事、そして腹立たしい事と思つてなりま

交歓討論会

熱心

「ふるさとの集い」に参加したのは、県が四年前から山村の青年を対象に実施している山村大学講座の受講者を中心に、山村地域の活性化の担い手として活躍しているみなさんです。

村民センターでの交歓討論会では三人の講師の提言をはさんで、十五人の代表が発言しました。

「むらおこしには地域での話し合いを重ねること」「一人のアイデアと三人の情熱で」「難しい品目へのチャレンジが誇りや励みになる」といった日ごろの活動を通じたむらづくりへの意見から「サラリーマン退職のすすめ」といったユニークなものまで、いろいろな意見が出ました。

私は金屋町の生石山ろくで、トマトやキュウリを栽培しています。5年前、町を出て勤めている若者13人と私との仲間が話し合いを持ちました。そこで出てきたのが「生石は嫌いどちがうけど、農業は収入が不安定だし、労働が厳しく自分の時間が持てない」という意見でした。

それなら、自分たちで若者の希望するような農業を始めようということで、ビニールハウスでの栽培などを取り入れています。おかげで1人Uターンしてくれました。

これからも若い人たちの意見を聞き、希望と夢のある里をつくりたいと思います。

がんばってます

杉村繁夫さん(51)

(農業、山村大学講座第1期生)



ふるさとの!



竹中肖之さん(34)

(林業、山村大学講座第3期生)

大塔村は96パーセントが山林で、林業が多いんですが、長びく林業不振で苦しい状況にあります。そこで、おととしから山村振興研究会というのをつくって村内を回り、各地区で意見を聞きました。

若者が定着するために、いま村に必要なのは、産業おこし、生活環境の整備、ふるさとを愛する心だと思います。

山村といつても何もないわけじゃない。都市にはない何かがあるはずです。それを発想の転換によって発見していきたいですね。

寒川伸彦さん(40)

(林業、山村大学講座第2期生)



私は金屋町の生石山ろくで、トマトやキュウリを栽培しています。5年前、町を出て勤めている若者13人と私との仲間が話し合いを持ちました。そこで出てきたのが「生石は嫌いどちがうけど、農業は収入が不安定だし、労働が厳しく自分の時間が持てない」という意見でした。

それなら、自分たちで若者の希望するような農業を始めようということで、ビニールハウスでの栽培などを取り入れています。おかげで1人Uターンしてくれました。

これからも若い人たちの意見を聞き、希望と夢のある里をつくりたいと思います。

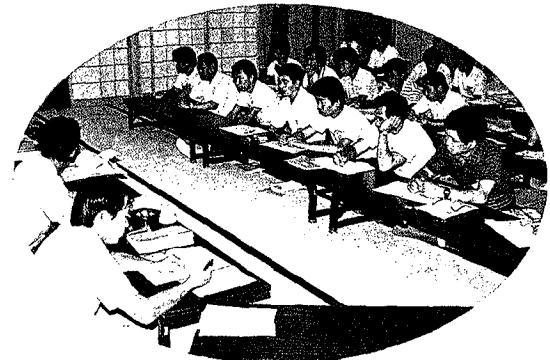
美山村では去年、産業振興会議というのをつくりました。そして産業まつりを開いたところ、村づくりへの士気が高まり、一体感が生まれてきたような気がします。

昼寝が好きだから農業をやりたいと沖縄へリターンした青年の話を読んで、まさにこれからは楽しみながらやる農業、楽林の時代だという感を強くしています。

林業の面では木材のほかにサカキやウメなどをつくる複合経営を目指して仲間をたくさん増やしていきたいと思います。これからは人脈と行動力ですね。

「むらおこしには地域での話し合いを重ねること」「一人のアイデアと三人の情熱で」「難しい品目へのチャレンジが誇りや励みになる」といった日ごろの活動を通じたむらづくりへの意見から「サラリーマン退職のすすめ」といったユニークなものまで、いろいろな意見が出ました。

発表のあとは「和歌山の未来の山村」についてのディスカッション。会場から意見発表者や講師に質問や意見があつきました。



地域ごとに課題を話し合う



メッセージをつけた風船が秋空へ

高③西牟婁④那賀・東牟婁の四つの分科会に分かれて「いま、行動すべきこと」について話し合い、それぞれの分科会で宣言文を作りました。

勇ましい太鼓の音に一同注目。宣言文を読み上げる代表者の声が紀州の屋根に力強く響いていきます。

宣言文は参加者の名簿とともにタイムカプセルに入れられ、二十年後の再会を約して埋められました。

ブナを記念に植樹したあと、全員の手からメッセージのついた色とりどりの風船が放たれ、秋の空高く舞い上がって行きました。

この会場には女性がいませんね。村おこしのようにシコシコと続けていかなければならないものには女性の方が合っているんですよ。

「和歌山県未来の山村開発計画」では和歌山県の地域の特性を生かした国際化、教育、健康、レジャーを提言しています。これからは発想はグローバル（地球規模）に、行動はローカルにということを考えください。



宮川敬章さん

KKAアシスタント取締役、和歌山県未来の山村開発計画委員代表

おしらせ

640 和歌山市小松原通(一)

(0734)32-4111



参加しよう

身体障害者スポーツ教室

県木の文化推進委員会事務局
☎(0734)32-4111へ
連絡してください。
先着50人で締め切りります。

くわしくは県庁監理課、建
設業退職金共済和歌山県支部
☎(0734)36-1327へ
れます。

個人が建設業の仕事をしなく
なったときに退職金が支払わ
れます。

県民の文化推進委員会事務局
☎(0734)32-4111へ
連絡してください。

このことになるという。県民
にとっても政治家にとって
も重大関心事であろう。そ
こで何としても減少に歯止めをかけねばなるまい。幸
い関西新空港は年内着工し、半島振興法も着々軌道に乗
っているようだ。国土庁長官は紀伊半島保養基地は四
地域社会づくりのため昭和52年から全国一斉に警
察、関係機関、団体および
地元住民が一体となって進
めているものです。

皆さんも一人ひとりが防犯

活動に参加するとともに、隣
近所が協力し合って、犯罪のない明るい町づくりを

してしまします。

このことには、



去る8月27日、28日の両日、那智勝浦町で「心身障害児親子のつどい」が開かれました。

27日の午後、県下各地から障害児とその家族が次々と到着。最終参加人数は千人を超えるました。

午後2時からの式典の後は自由行動。ゲームやフォークダンスを楽しんだり、プールで水しぶきを上げたり…。また、夕食後はショーやくじ引き大会、カラオケ大会と夜が更けるまで楽しいつどいの輪は広がっていました。(那智勝浦町)

「心身障害児 親子のつどい」開催

(新宮市)

この時計台は高さ四メートル、横幅一・二メートル、奥行き一・二メートルでヒノキ材で組まれています。八角型の屋根からは愛らしい三羽のハトの模型がつるされています。

新宮駅前広場の新しいシンボルとして、優秀な熊野材のPRをかねて造られました。

広場には昭和三十七年七月に建てられた東くめさん作詞の「鳩ぽっぽ」の歌碑が時計台に面して建っています。



鳩ぽっぽ時計、 新宮駅前に完成

トラクターパレード 「農林業まつり」

「まちとむらのかけ橋、農林業」をテーマに、第37回農林業まつりが和歌山市で開かれました。

毎回好評のふるさと物産青空市場ではブドウ、ナシ、ショウガ、サツマイモなどの特産品や、ゆずのジュース、高菜漬などの加工品が多数展示即売され、大にぎわいでした。

また、9月6日のオープンにあわせて農業機械展に出品されているトラクター7台が、和歌山市内をパレード、市民に農林業まつりへの参加を呼びかけました。

(和歌山市)



若者から二十一世紀へ提言

愛する郷土の未来を考え、話し合い、そしてその結果を少しても実現させようと高野口町で九月七日、「青年議会」が開催されました。町議会議場で行われたこの「議会」、実際の町議会さながらに「青年議員」の質問に町長はじめ町当局が答弁。

質問は国際社会への対応や地場産業のバイル織物のことなどを若者らしい感覚で。これから若者の役割を五つのアピールに盛り込んで一日の会期を終えました。

(高野口町)



稲口梧陵の火



シリーズ14

安政元年（一八五四年）十一月、県下を大地震が襲い、続いて大津波が押し寄せました。

大津波がくる直前、それを予想した浜口梧陵は、地震により崩壊した村を右往左往する人々をどうすれば早く安全な場所に誘導できるかを考えました。やがて梧陵の家の稻むらが燃え上がり、夜空を焦がす炎に村の人々は何事かと集まってきた。人々を山の方へ誘導するために、収穫したばかりの自分の稻むらに火をかけたのでした。その後、ドドーンという音とともに大津波が押し寄せ、村をのみこみました。

津波が押し寄せました。

大津波がくる直前、それを予想した浜口梧陵は、地震により崩壊した村を右往左往する人々をどうすれば早く安全な場所に誘導できるかを考えました。やがて梧陵の家の稻むらが燃え上がり、夜空を焦がす炎に村の人々は何事かと集まってきた。人々を山の方へ誘導するために、収穫したばかりの自分の稻むらに火をかけたのでした。その後、ドドーンという音とともに大津波が押し寄せ、村をのみこみました。

津波が押し寄せました。

大津波がくる直前、それを予想した浜口梧陵は、地震により崩壊した村を右往左往する人々をどうすれば早く安全な場所に誘導できるかを考えました。やがて梧陵の家の稻むらが燃え上がり、夜空を焦がす炎に村の人々は何事かと集まってきた。人々を山の方へ誘導するために、収穫したばかりの自分の稻むらに火をかけたのでした。その後、ドドーンという音とともに大津波が押し寄せ、村をのみこみました。

津波が押し寄せました。

大津波がくる直前、それを予想した浜口梧陵は、地震により崩壊した村を右往左往する人々をどうすれば早く安全な場所に誘導できるかを考えました。やがて梧陵の家の稻むらが燃え上がり、夜空を焦がす炎に村の人々は何事かと集まってきた。人々を山の方へ誘導するために、収穫したばかりの自分の稻むらに火をかけたのでした。その後、ドドーンという音とともに大津波が押し寄せ、村をのみこみました。

津波が押し寄せました。

昨日來の急激な円高や内需の低迷で、県内の地場産業も大きな打撃を受けています。そんな厳しい状況の中で、海南市の漆器業界では、十年來の関係者の努力により、「紀州漆器伝統産業会」を取材して、紀州漆器にかけた情熱を強く感じました。